

第8回 清和台地区学校のあり方を検討する懇話会

令和8(2026)年4月28日
於:清和台中学校
午前10時~



はじめに

第8回懇話会のゴール

1. 教育委員会として「中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境」の実現をめざすことを決定したことについてご報告させていただき、ご意見を伺う。
2. 「中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境」を検討するにあたっての前提条件や今後の協議事項について、懇話会の皆さまのご意見を伺う。

目次

1. 審議会での意見について

2. 今後の清和台地区の方向性について

3. 今後のスケジュールについて

審議会での意見

小中一貫教育について

- ①小中が一緒になって挨拶運動をするなど、小学校だけ、中学校だけの取り組みよりも幅のある活動ができる。1つの校舎の中での交流の幅が広がることは、ポジティブに感じる。
- ②中学校で気持ちを切り替えたいと思っている子どもに関しては、進級後も同じ校舎で過ごすことになるため、少し工夫が必要だと感じる。

義務教育学校に勤務されていた委員からの懸念事項に対する意見

- ③中学生の悪い影響を受けないかという意見があったが、小学生と中学生が一緒に生活すると、中学生はみっともないことができないという思いで、小さい子に優しく接するようになると感じた。登校時には、小学1年生と中学3年生が同じ校門から仲よく入ってくる微笑ましい光景を見ていた。
- ④けじめがなくなるという意見について、やり方はあると思う。例えば式典は、6年生が卒業式ではなく、前期課程の修了式という形をとっていた。7年生は、進級式を行うことで、一定の切り替えができていた。また、7年生（中学生）から制服着用としていたため、進級後も同じ校舎ではあるが、制服を着て学ぶことで、子どもも教職員も変化を感じていた。

C案について

- ①C案の同じ場所で生活するというのは、子どもたちの人権感覚を養うのに、とてもすてきなことだと思う。また、生徒の相互理解や尊重し合う心が育っていくのは非常に大きなメリットだと感じている。ただ、肢体不自由の子どもが他の児童生徒と一緒に過ごすことについては、教員の専門性をより高めていく必要もあり、施設整備に力を入れないといけない部分もあると感じている。
- ②障がいがある方とない方が、一緒に生活して学んでいく環境をつくるというのは、社会の中ではすごく自然で当たり前のことなので、学校もそういう自然な形がいいと思う。
- ③子どもを通じて保護者同士がつながるということが、いろいろな社会生活をする上で、大人も豊かになることにつながる。小学校の統合、さらに中学校、特別支援学校も一緒になれば、大人同士のつながりも4倍増になると考えると、それは保護者や地域にとってもすごくメリットがある。関係者が増えるということは、大人もいろいろ触れ合えるきっかけができるので、パパ友やママ友のつながりも一気に広がり、それが地域、自治会運営などにもプラスになっていくと考える。

審議会での意見

議論の進め方について

- ①数年前には地域から抵抗感もあったと聞いている。単学級が長く続いている状況もあるかもしれないが、早く進めてほしいという意見の保護者も多い。丁寧に進めていることが、前向きな意見に反映されていると感じた。
- ②川西養護学校の保護者や教職員にも案を示し、意見を収集している。関係者から広く意見を募っており、非常に丁寧な進め方をしていると思う。
- ③教育環境を中心に検討して、それが実現できる場所はどこなのかを考えるという順序が大切である。

その他

- ①子どもの意見を聞いていることが非常に面白い。学習のテーマとして、自分たちが住んでいる地域の今後のことを、我が事に引きつけて学習にしていくことは、とても有意義なことだと思う。今後、中学校や特別支援学校の子どもたちがどのように思っているか聞いてみるのも良い。
- ②地域には、子どもが成人し、自分には関係ないことと思われる方も多いと思う。子どもも大人も「新しい学びの場ができる」と、関心を持ってもらえるような学校づくりをすることも大切。

目次

1. 審議会での意見について

2. 今後の清和台地区の方向性について

3. 今後のスケジュールについて

今後の清和台地区の方向性について

意見収集の結果

- A 小学校のみの基本的な教育環境
- B 中学校とのより密接な連携が可能な教育環境
- C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

川西養護学校保護者の意見

学校の場所としては、川西・猪名川の中間地点である清和台地区が良いという声が多く、日常的に交流する機会を増やすことができるC案には、肯定的な意見が多かった。

清和台地区保護者の意見

少子化が進む状況の中で、いろいろな立場の人と出会い、学べる環境であるC案を選び、子どもたちにとって魅力的で良い学校をつくってほしいという意見が多かった。

今後はC案を中心に検討していき、保護者や地域に説明を行い、理解を得ていく。

その際の懸念事項

- ・早く統合してほしいという保護者の意見にどう対応するか。

今後の清和台地区の方向性について

教育委員会の考え

1. 学校教育においては、子どもたちがそこに集う人々を含め、多様な価値観に触れ、互いを認め合い、協力し合う経験を通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばす教育環境をつくることが重要である。このような教育環境を実現するためには、ひとつの学校でともに学ぶ環境が望ましい。

A 小学校のみの基本的な教育環境

B 中学校とのより密接な連携が可能な教育環境

C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

教育委員会としては、多様な価値観に触れることのできる教育環境をつくることが重要と考えているため、今後の教育環境としては、C案が望ましいと考えている。

意見や感想等について

今説明させていただいた、清和台の教育環境をC案で進めていくことについて、どのように考えますか。懇話会の皆さまのご意見をお聞かせ下さい。

今後の清和台地区の方向性について

C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

C案を検討するにあたっての前提条件

①運営場所

②開校時期

③学校の形態

今後の清和台地区の方向性について

①運営場所について

候補地について

中学校と小学校、川西養護学校が同じ敷地内に併設される計画のため、広い敷地が必要となる。川西養護学校の校舎が老朽化しているため、解体を行い、新校舎を建設する。

①清和台中学校と川西養護学校を合わせた敷地

1番広い敷地がある。川西養護学校の敷地を含めると、現在の清和台中学校のグラウンドの広さを保ったまま校舎を新設することができる。

②清和台小学校

運動場に校舎を新設すると、運動場が狭くなる。

③清和台南小学校

テニスコートに校舎を新設した場合でも、運動場の広さが中学校運動場の基準より狭い。

④清和台中央公園

学校用地としては、面積が足りない。

今後の清和台地区の方向性について

清和台中+川西養護



28,978㎡

清和台南小 20,385㎡



清和台小 20,009㎡



清和台中央公園



11,009㎡

※同じ倍率で表示しています

今後の清和台地区の方向性について

②開校時期について

R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
方向性決定	新しい学校のコンセプト作成 →	新校舎設計	←	工事期間 (3年)	→	新学校開校
			川西養護学校 仮設へ移動		→	

構成メンバー

子ども

地域

保護者

教職員

※令和9年度は、子どもたち、地域、保護者、教職員の意見を集めながら、どのような学校にしたいか、新しい学校のコンセプトを検討する委員会を立ち上げ、1年間かけて検討していく。

小中一貫教育について

③学校の形態について

小中一貫校もしくは義務教育学校とし、川西養護学校を併設する。

清和台中学校、新清和台小(仮称)、けやき坂小の3校で小中一貫校、または、義務教育学校として運営する。

川西養護学校は、現在の体制を維持し、単独で運営を行いながら、交流の場を設け、ともに学びあう環境をつくる。

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす教育

義務教育学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒1人の校長、
1つの教職員組織

修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)

小中一貫型小学校・中学校

・組織上独立した小学校及び中学校が
一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

小学校 6年
中学校 3年

どちらにも、施設一体型・施設隣接型・施設分離型の施設の形態がある。

今後の清和台地区の方向性について

C 中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境

C案を検討するにあたっての前提条件

以下の条件で、検討を進めていく。

①運営場所

・第1候補地を、清和台中学校と川西養護学校を合わせた敷地で検討する。

②開校時期

・開校までに6年程度必要なため、令和14年度開校で検討する。

③学校の形態

・小中一貫校もしくは義務教育学校とし、川西養護学校を併設する。

意見や感想等について

今説明させていただいた、C案を検討するにあたっての前提条件について、どのように考えますか。懇話会の皆さまのご意見をお聞かせ下さい。

今後の清和台地区の方向性について

C案で検討を進める際の今後の協議事項

1. 開校まで時間を要することについて

開校までに6年を要すると、現在の小学1年生は、卒業まで単学級のままということになる。単学級に対して不安を感じる保護者も多くいたため、先に小学校2校を統合することも含めて解決策を検討していく。

2. 通学支援について

通学の負担が大きくなる児童の数や地域について、現状把握を進める。

3. 川西養護学校の仮設校舎について

川西養護学校の校舎の建て替えが必要になるため、建て替えの間の仮設校舎が必要。川西養護学校の児童生徒が安全に学校生活を送れる場所を検討していく。

今後の清和台地区の方向性について

開校までの期間について

現時点 ←-----		2校が現状のまま学校運営を続ける期間				-----→	新学校開校
R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	
1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2	
2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2	小3	
3歳	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	
4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	
5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	
小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	
小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	
小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	
小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
中1	中2	中3	高1	高2	高3	大1	

意見や感想等について

今説明させていただいたC案で検討を進める際の今後の協議事項について、どのように考えますか。懇話会の皆さまの感想やご意見をお聞かせ下さい。

目次

1. 審議会での意見について

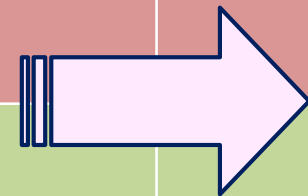
2. 今後の清和台地区の方向性について

3. 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール(イメージ図)

令和8(2026)年～

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
懇話会		第9回	第10回	第11回	第12回					
意見収集	保護者・子ども 対象 意見交換会								開校準備委員会 スタート	
意見収集 (教職員)	清小	清南小	川西養護	清中						
説明会			第3回					第4回		



開校準備委員会
スタート

教育環境と運営場所、通学支援などについて、教育委員会の案を提示します。

検討した協議事項を含めて、新たな清和台地域の学校の具体的なあり方を提示します。